

アジア・アフリカ地域研究研究科
フィールドワーク・インターンシッププログラム 2011年度 派遣報告書

以下の項目について記入してください。全体で1ページを超えないようにしてください。

*ファイル名を「FIP 派遣報告書 2011_名前」としてください。

【報告書に記載する内容項目】

1. 調査の目的と方法

本調査の目的は、1970年代以降、ムスリムとクリスチャンのインターマリッジが、大学生や宗教対話を目的とする運動家を中心として、より盛んに行われるようになった背景を検証することであった。調査方法は、宗教対話を目的とするNGOや研究機関における活動に参加したことをきっかけに配偶者と出会い、インターマリッジを行った夫婦へのインタビューである。

2. フィールドワークで得られた新たな知見

本調査によって、1970年代に、宗教対話を目的とする活動に参加したことをきっかけに、インターマリッジを行った夫婦へのインタビューを通して南部フィリピンにおける紛争状態が、インターマリッジが行われた背景となるという逆説的影響があったことが明らかとなった。

南部フィリピンにおいて、1970年よりムスリムを主体とする反政府組織による分離独立運動が行われた。その後の紛争状態を宗教対立とするマスメディアの報道に抗するように、NGOや教育機関が中心となって宗教対話や平和運動が盛んになった。その活動は、学生を中心とするムスリムとクリスチャンの若者の出会いの場の1つとなった。さらに、そのような活動に参加する若者達は、マスメディアによる否定的言説や伝統的規範などから比較的自由的な価値観を有していることによって結婚がより容易となった。

出会いの場が多くなることは、インターマリッジの頻度を高める一要素であるという説が、先行研究によって提出されている。先行研究において、居住、教育機関、仕事場の3つが最も重要な出会いの場となることが指摘されている。本調査によって、南部フィリピンにおいては、市民活動、ボランティア活動の場が、インターマリッジを促す重要な出会いの場であることが示唆された。

加えて、本調査中に行った宗教対話や平和構築運動に関係なく結婚した夫婦に対する聞き取りによると、結婚に際しての両親からの反対は、1970年代以降の分離運動におけるムスリムあるいはクリスチャンのイメージよりも、伝統的習慣や規範の厳格さといったことに起因することが分かった。

3. 今後の展開・反省点

反省点、今後の課題として3点を挙げる。

今回の調査では、ディマポロ氏へのインタビューを行うことができなかったため、再度インタビューを試みるのが第一の課題である。

第二に、インターマリッジが行われる背景を分析する際、分離運動や紛争のみならず、それ以前の歴史に着目して分析する必要がある。

第三に、1970年代ごろから2000年以降で南部フィリピンにおける政治社会的背景はかなり変容していることから、出会いの場や家族からの反対の理由などを年代別に整理して分析することによって、南部フィリピン社会におけるインターマリッジの位置付けをより動的に把握することが可能となる。